

地域住民の食環境改善のための中食を利用した取り組み

団体名 三澤ゼミナール 食育研究会

代表者名 大和地 悠

1 事業内容

本研究事業では、自然と健康的な食行動がとれるきっかけが必要なことを背景とし、食環境整備に繋がる中食の開発と栄養関連情報の提供による食選択能力の向上を図ることを目的とした。八王子市に所在するたてキッチンさくらと連携し開発を行った。たてキッチンさくらで販売されている中食や従業員、利用者の意見を参考に「オムロール」を制作し販売した。栄養関連情報として4種類のPOPを制作し掲載をした。

2 実績報告

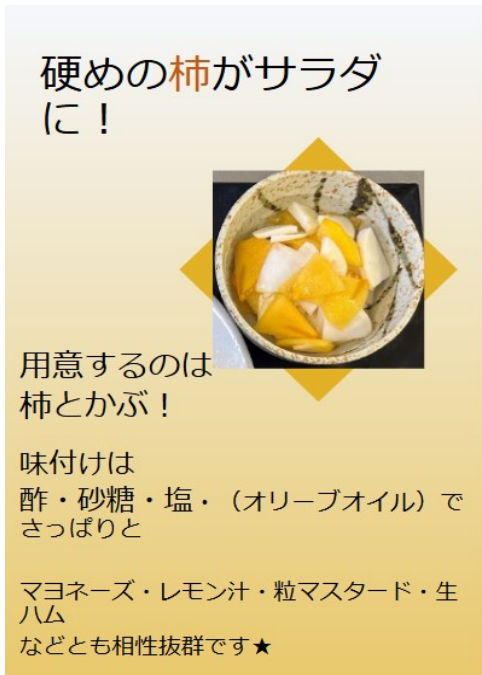
レシピ提供にあたり従業員の方や利用者の方から「彩りが良く、食べやすいものがよい」、「今までにないものがあると嬉しい」という意見を頂き、前年度開発した「オムもぐプレート」のオムライスアレンジし、おにぎりの様に1つにまとめた「オムロール」を制作した。試食の結果は好評で、館ヶ丘団地で行われた秋祭りで「オムロール」の販売を行い完売する事ができた。消費者が店に並んだ際の待ち時間を利用し「スマートミールとは」、「春夏秋冬の季節野菜」、「硬めの柿がサラダに!」、「秋の代表さんま」の4種類のPOPを制作し掲示をした。団地住民の多くは高齢者の為、普段から資料作成している従業員の方の意見を頂きながら、見やすさを意識して作成した。具体的には、文字の大きさを大きくし文章を簡潔にまとめ、イラストを多く使う事で目に留まる様なデザインにした。さらに、POPの中で取り上げた1日の食塩相当量を文章だけではなく、実際に塩を3g袋に入れて可視化することで、文章だけでは理解が難しい点をわかりやすく掲示した。消費者等にアンケート調査の実施予定だったが、大学内での倫理審査を通すのに時間を要してしまう為、従業員への聞き取りに変更した。

3 事業を実施した感想（実施した者として、どのように感じて、今後どのようにしたいのか）

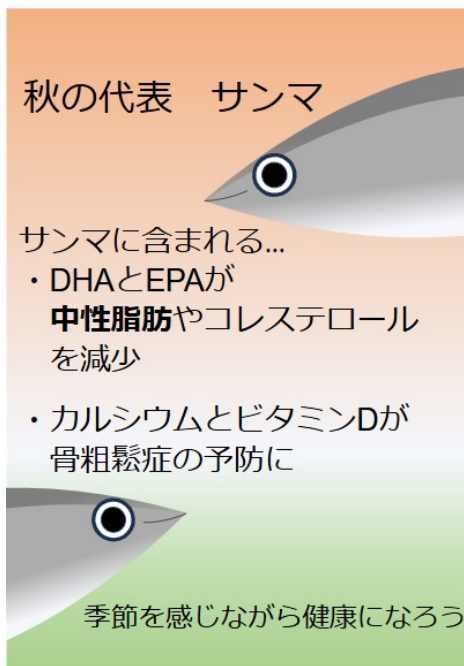
自然と健康的な食行動がとれるきっかけが必要なことを背景とし食環境整備に繋がる中食の開発と販売、栄養関連情報の提供をすることが出来た。秋祭りでは「冷めても美味しい」、「食べやすい」、「子供も大人も喜ぶ味の良さで見た目も良い」という感想をいただいた時は嬉しかった。館ヶ丘団地住民の多くが高齢者の為、POP作成では文字の大きさやイラストの活用、専門用語を誰でも分かる様にかみ砕き、見やすく分かりやすい資料作成の難しさを学んだ。今回は情報提供のみで理解度調査等を行うことが出来なかった。理解度調査のアンケートを実施した後、より分かりやすい栄養関連情報等を提供したい。



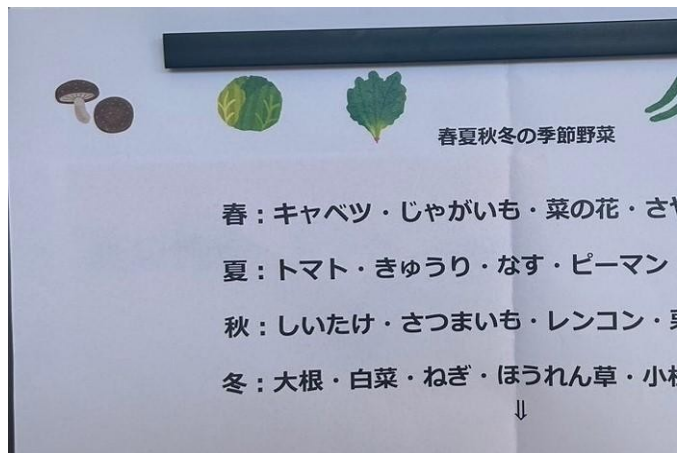
開発した「オムロール」



掲載したポスター①



掲載したポスター②



掲載したポスター③



掲載したポスター④